

## はじめに

教育というのは、人間の根幹をなすものです。教育なくしてヒトは人間にはなれないからです。

人間は社会というシステムによってむき出しの自然から守られ、野生動物のようにじかに自然に適応しなくても生きていけます。その代わり、社会に適応し、仕事というかたちで社会になんらかの貢献をしなくてはならない。それが人間という存在であり、教育はヒトをそういう人間に育てるためにあるものです。だからこそ、大人は、子どもに教育を受けさせる義務を負い、社会に適応する方法を子どもに教える責任があるのです。

しかし今は、きちんと家庭教育を行わず、教育を学校に丸投げする親や、学ぶこと自体を拒否する子どもが増えています。これでは、同じ社会に暮らす人間として、本来なら共有すべき常識（コモンセンス＝共通感覚）を持てるはずがなく、同じ社会の一員として他人と信頼関係を築けるようにはなりません。このままでは、教育どころか社会そのものが崩壊する恐れさえあります。他人が一切信用できないような殺伐とした社会（まだ社会と呼べればの話ですが）で、人間は幸せに暮らしていけるものでしょうか。

教育の問題は社会全体の問題です。社会を健全に保ち、この国が再び滅びの淵に近づくのを防ぐためには、一人でも多くの人間がこのことに気づき、問題を我が事として受け止めることが必要だと思います。人間が社会的な存在である以上、これは誰にとっても他人事では済まされません。これは誰にとっても他人事では済まされません。